

就学制度及び通学の基本的な考え方の共有について

1 就学及び学区外通学制度の基本的な考え方について

町田市立中学校は、お住まいの住所により入学する学校(指定校)が定められています。指定校以外の中学校に進学を希望される場合は、入学する前年度に以下のいずれかの申請が必要です。

① 就学指定校変更制度

兄弟姉妹関係、転居予定など該当する事由があれば、希望する学校への通学が可能

② 通学区域緩和制度

中学校の場合は、市内全域の中学校から選択が可能

各校で受入れ枠(受入れ可能な人数)を設定⇒受入枠を超過する場合は公開抽選



2 学校統合に向けた学区外通学制度について(別紙 2-2(1)参照)

学校統合に向けて以下の二つの特例措置を設けております。薬師・金井地区については以下のとおりとなります。

① 金井ヶ丘 4 丁目にお住まいの場合

申請をすれば鶴川第二中学校に入学できます。

② その他の地域の特例措置

自宅からの通学距離が指定校まで片道 2.0km 以上かつ希望校まで片道 2.0km 未満の場合、通学区域緩和制度と同じ受入れ枠の範囲内の受入れで、通学区域緩和制度より優先的に入学可

3 通学距離・通学時間の基本的な考え方について

(1)文部科学省の基準・目安

① 通学距離の基準 小学校4km 中学校6km

(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令)

② 通学時間の目安 おおむね 1 時間以内

(公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引)

(2)町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方(町田市立小・中学校共通)

① 通学距離の許容範囲 徒歩でおおむね 2km 程度を目安

② 通学時間の許容範囲 おおむね 30 分程度を目安

※2019 年度に実施した「町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査」を基に、「まちだの新たな学校づくり審議会」で議論し、町田市の適正規模・適正配置に関する基本的な考え方を整理しました。

4 通学経路について

- 通学路とは、法令において「児童が小学校(特別支援学校の小学部を含む。)に通うため、1 日につきおおむね 40 人以上通行する道路の区間」のほか、「児童が小学校に通うため通行する道路の区間で、小学校の敷地の出入口から 1km 以内の区域に存し、かつ、児童の通行の安全を特に確保する必要があるもの」とされています。
- 各小学校は、法令の定める基準を準拠しつつ、児童が安全に登下校できる道路を指定しています。これを通学路と言います。
- 小学校とは異なり、中学校には学校が指定する通学路はありません。生徒本人と保護者で判断し、安全と思われる経路で通学することとなります。ただし、小学校の通学路では、2 年に一度、通学路安全点検を実施しており、危険箇所の確認と安全対策(別紙 2-2(2)参照)を講じていることから、中学校への通学経路と重複する箇所は一定の安全確保をしています。

5 公共交通機関の利用について

通学の基本は徒歩ですが、公共交通機関を利用して通学する場合で支給要件を満たすときに通学費の補助を実施しています。

(1)通学費補助に関する制度

① 通学費補助金

所得制限はありませんが、支給要件を満たす場合に購入された通学定期券の3分の2の額を補助する制度です。

② 就学援助費通学費

生活保護世帯を含む経済的に困りの方が対象です。支給要件を満たす場合に購入された通学定期券の実費額を補助する制度です。

(2)支給要件

- ① 町田市立小・中学校に在籍していること
- ② 通学距離がおおむね小学校で1.5km 以上、中学校で2.0km 以上あること
- ③ 指定校もしくは教育委員会が定めた特認校に通学していること
- ④ 公共の交通機関での通学を学校長が認めていること
- ⑤ 通学定期券を購入していること

6 薬師・金井地区通学方法のシミュレーション等について

○仮校舎への徒歩ルート、路線バスルート(資料 2-2(3)及び(4)参照)

○仮校舎への通学の負担軽減策検討状況(資料 2-3 参照)

- ・自転車通学を中学生の通学負担軽減策の選択肢の一つとして位置づけ
- ・自転車通学に関する統一的な基準を策定するため、中学校、保護者、市民の代表等で構成する「町田市立中学校自転車通学協議会」を設置し、2025年7月から検討を進めています。